

第4回学びが喜び・ESD 連続公開講座概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年11月25日(金) 19時～20時30分
- ◇会場・方法 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館多目的ホール・ハイブリッド方式
- ◇参加者数 対面：25名 オンライン：64名
- ◇内容

「タイムリミットあと7年」フランク・カトリン氏

1. 自己紹介

- ・動画「ワタシが日本に住む理由」視聴 愛知・名古屋を中心に環境活動をしている。
- ・高校生のホームステイで来日。18歳でワーキングホリデーで再来日。上智大学に留学、名古屋の企業に就職

2. 環境活動を始めた理由

- ・ドイツでは学校で環境について学んでいたが活動するまでにはいたっていなかった。
- ・2018年フィリピンでホームステイをした。その際の台風ハイエンによる大きな被害の話をホストファミリーから聞き、先進国の住民としてこれまでCO2をたくさん出しており、CO2をほとんど出していないココナッツ畑で働いていた人が大きな被害を受けるのは、不公平だと感じた。
- ・まず、ライフスタイルを変えようと思った。自分なりにできることをしようと、ビーガンになった。また、マイボトル・マイ箸を持つようになった。
- ・地球温暖化を防ぐ上で、タイムリミットがあることを教えられた。1.5度を超えてしまうと、地球環境の温暖化が不可逆的に進んでしまう。このペースでCO2が排出されていけば、あと7年で1.5度を超えてしまう。
- ・もっとできることがあると考え、Friday for Future名古屋チームを3人で立ち上げた。
- ・2019年9月グローバル気候マーチのオーガナイザーとなった。300人も参加してくれた。全面的に環境活動をやっていきたいと思うようになった。

3. 自分なりにできること

- ・毎月1回のゴミ拾い 毎月第2日曜日 10時～ 70人程度の参加があり、100キロほどのゴミを拾う。
- ・地球に優しい料理(ビーガンの料理)を紹介するイベント
- ・NPO法人 HAPPY PLANET を立ち上げることにした。
環境問題・社会問題を扱い、誰もが幸せになる社会をつくっていききたい。
今、ブラックボックス化している状況を知る化することからはじめよう。
- ・辞職して環境活動をしようと思ったが、会社から意識啓発活動・サステナビリティ研修を依頼され、現在はサステナビリティ推進室に所属している。

4. サステナビリティについて

持続可能な社会をつくらないと気候変動を解決できてもまた同じようなことが起こる。サステナビリティとは、人間活動をいつまでも続けられること。そのための資源を将来世代に遺すこと。

大量採掘 ⇒ 大量生産 ⇒ 大量消費 ⇒ 大量廃棄 この流れがますます早くなっている

問い1. 世界の人が日本人と同じような暮らしをすると、地球何個分の生産力が必要になるか？

2.7個(今は1.7個)

不足をもたらしているのは、先進国の人々の暮らし。今のままだと、資源がなくなります。

5. 持続可能性の4つの障害

(1) 化石燃料を使いすぎている

CO₂の濃度について、それまでは300PPMを超えたことがなかったが、産業革命とともに300PPMを超え、今は420PPMになっている。

温暖化 1.1~1.2度上がってきている。気候変動による異常事態

①生態系の変化、②干ばつ、③火災、④氷が溶ける、⑤豪雨・台風
人の住める場所が少なくなってくる。食料不足が予想される。

問い. 気候変動の影響を受ける国のランキングで日本は何番目ぐらいか? 4位 (2019年)

▼日本は温暖化の影響を受けやすい国

▼2100年には6.4度上昇するかもしれない。

パリ協定 1.5度までに温度上昇を抑えようとしている。

1.5度をこえると不可逆的な状況になる可能性がある。

臨界点を超えるまで、あと7年しかない。

カーボンバジェット MCCのウェブサイト参照

※私たちにできること

- ・省エネすること (節電・節水)
- ・再生可能エネルギーに切り替えること 2016年から電力の小売全面自由化開始
一般家庭から出るCO₂の半分は電力使用から

(2) 人工的な物質の過剰生産

海洋プラスチックごみの排出量 (800トン以上/年)

すべては自然から来て自然に戻るが、人造物質は自然に戻れない

プラスチックは自然を汚染し、健康にも悪影響を与える。

現在、私たちは毎日プラスチックをたべている。

週に1枚プラスチックカードを食べているようなもの。(WWFのHPより)

▼マイクロプラスチックの発生源

プラスチックのリサイクル率は18パーセントにすぎない

※私たちができること

リデュース (ごみを減らす)、リユース (再利用)、リサイクル (再生利用)
長く大切に、繰り返し使う。(日本の形見というのはいいいシステム)

(3) 自然の破壊

私たちはあまりに早いペースで不可逆的に自然を破壊している。

1分当たりサッカー場40面ぐらいの森林を破壊している。

※私たちにできること

- ・肉・乳製品の消費量を減らす。ビーガンになった。
牛を育てるために熱帯雨林破壊の90%を引き起こした。
哺乳類の中で人間は36%、野生動物は4%、家畜は60%
畜産はすべての交通機関と同じCO₂を排出している。全排出量の14%に至る
- ・週に1日だけ肉を食べない日をつくる、とか。

(4) 社会の不平等 自然の限界と基本的な人間のニーズのバランスがとれていない。

すべてのお金の 50%を 1人が持っている。10%の人が 85%のお金を持っている。

先進国は途上国に支援しなければならない。責任がある。なんでもお金で回っている世界ではバランスが取れない。

※私たちにできること

- ・自分の声を使うこと (グレタさんのように)。周囲にうったえかける。
- ・選挙に行って投票すること
- ・エシカル消費 地球と人にやさしい買い物 認証ラベルを参考に
どこで生産されたものか? 中古製品を買うこと

将来世代に美しい地球を残すことができる

しかし、地球の課題への関心が低い 深刻さが知られていない 意識啓発活動が重要だ

6. 日本とドイツの異なるところ

①メディアの違い。

1995年ドイツでは気候変動がテレビ番組でニュースになっていた。今も毎日のように報道されている。

②教育の違い

自分の意見を述べる力を育てることが中心になっている。意見を発信できる人を育てることを大切にしている。

日本の投票率は低い。それは危ないと思う。若者に政治に興味を持ってもらうことが大事。

③活動の中で大事にしている3つのことば

「過去と他人は変えられない。自分と将来は変えられる。それが他の人をインスパイアできるかもしれない。」

「小さなことからコツコツと！」

「一人の100歩より、100人の1歩」。

・とにかく楽しく！一歩一歩で明るい将来へ。

7. グループワーク：衣・食・住 自分たちにできることを考える

【食】

- ・食料品の購入の際に海外支援に関連した食品を選択する
- ・地産地消を進める
- ・プランターでゴーヤの栽培 グリーンカーテンで冷房の使用量を減らす。
- ・遠いところから来たものは敬遠する
- ・手前どりを率先する。
- ・家庭菜園をして、野菜中心の食生活にしていく。
- ・毎週金曜日は大学生協のメニューをミートフリーにする。ビーガンプレート。

【住】

- ・過剰包装のものを買わない
- ・お米のとぎ汁をお花に
- ・化学洗剤の使用量を減らす

- ・節電（人が来たときに点灯する）
- ・電力会社を選ぶ
- ・節水のシャワーヘッド
- ・がまんすれば何とかなる
- ・断熱効果の素材を使用する。

【衣】

- ・古着は切って、拭き掃除に使用する。
- ・質のいいものを長く使う
- ・メリカリを使う。いらなくなった服は回収してくれる

